

事務事業マネジメントシート (20年度実績と21年度計画)

21年度予算編成後平成 21 年 3 月 25 日 作成
20年度決算把握後平成 21 年 10 月 8 日 作成

事務事業名		官民境界立会事務			<input type="checkbox"/> マニフェスト 関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断 課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革 プラン関連		
総合計 画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり		所属部	都市建設部	課長名	上原哲也	
	施策	24	行財政改革の推進		所属課	建設課	担当者名	高来 登	
	基本事業	90	公有財産の管理運営		所属班	管理計画班	(内線)	2271	
予算科目					会計	款	項	目	
事業連番					<input type="checkbox"/> 20年度で終了 <input type="checkbox"/> 21年度から開始			成果優先度評価結果	10
								コスト削減優先度評価結果	6
事業期間		<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度			年度)		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~
									年度)
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)									
【事業の内容】 土地の所有者が道路等との境界確定を行う際、申請に基づき境界立会を行い境界の確定を行う。									
【業務の流れ】 申請の受付、立会い日程の調整、境界立会い、記録簿の作成									
【主な予算費目】									

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO) 申請書受付、審査、境界立会い、記録簿作成。	21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) 前年度同様
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 市道と市道に接する民地。 ※(ここでの市道とは市道のほかに里道・水路・市所有公衆用道路を含む。)	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位) ア 申請件数 件 イ 立会い日数 日
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 市道と市道に接する土地との境界を確定する。	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位) ア 申請筆数 筆 イ
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか) 目的に沿って適正に管理され有効に活用されている。	⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位) ア 官民境界対応率 % イ
	⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位) ア 普通財産(土地)のうち売却等の処分をした面積の割合 % イ

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 ~ 年度
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円							総 ト ー タ ル コ ス ト (期間 限定 複数 年度 のみ 記載) 目 標 合 計 値 画 22 年 度
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	(A) 事業費計		千円	0	0	0	0	0	0	
	うち指定経費		千円							
	うち時間外、特殊勤務手当		千円							
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	13	10	10	10	
		延べ業務時間	時間	900	900	1,033	1,000	1,000	1,000	
(B)人件費計		千円	3,573	3,582	4,111	3,980	3,980	3,980		
トータルコスト(A)+(B)		千円	3,573	3,582	3,582	4,111	3,980	3,980		
活動指標	ア 件 イ 日		148 108	137 102	150 110	145 85	150 110	150 110		
対象指標	ア 筆 イ		231	227	230	241	230	230		
成果指標	ア % イ		100	100	100	100	100	100		
上位成果指標	ア % イ		-	0	0	0	10	10		

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

- ① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?
国土調査が昭和40年代になされたが、その当時は木杭の設置であったため、年月が経ち杭が無くなり境界が不明になっている。このため境界を明確にし、個人及び市の財産の管理を行うものである。
- ② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
変化は見られない。
- ③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
特に無い。

事務事業名	官民境界立会事務	所属部	都市建設部	所属課	建設課
-------	----------	-----	-------	-----	-----

2 評価の部(SEE) *原則は20年度の事後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】↷ 市道と市道に接する土地との境界を確定することにより、目的に沿って適正に管理され有効に活用されることに結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】↷ 市所有道路等の財産を適切に管理するためには必要な目的である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】↷ 対象、意図とも現状で適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】↷ 国土調査を再度実施すれば成果を向上できるが、それには膨大な時間、予算がないと行えない。また、住民の理解が得られないと予想される。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】↷ 21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】↷ 市の財産の管理という観点だけではなく、市民の財産の管理に影響がでくる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ↷ (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】↷ 他に類似事業がない。 <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】↷
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 適正な事業の推進及び正職員の人件費以外に事業費はないため、削減余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 境界確定には管理者として責任が伴うため、正職員以外の職員が行うべきではない。ただし、境界確定に専門的な知識を持つ者をということであるならば、境界立会いには正職員二人が必ず対応するためそのうち一人は正職員以外の職員もしくは委託でよい。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】↷ 公平・公正である。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	効率性については、境界確定には管理者として責任が伴うため、正職員以外の職員が行うべきではない。ただし、境界確定に専門的な知識を持つ者をということであるならば、境界立会いには正職員二人が必ず対応するためそのうち一人は正職員以外の職員もしくは委託でよい。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持					低下			
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上		○																				
	維持																						
	低下																						

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1) 目的の直結度	9	(直結度高い 1~3 直結度中 4~6 直結度低い 7~9)
(2) 貢献度	11	(貢献度高い 1~3 貢献度中 4~9 貢献度低い 10~12)